

登録コード	L1430500	開講年度	2026				
担当教員	渡邊 綾			副担当			
授業科目	社会学特論Ⅴ						
英文授業名	Introduction to Sociology Ⅴ						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生	2～4	講義期間	前期	曜日・時限	水曜・4時限
講義室	人文212講義室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			⇔	【授業の達成目標】		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ						
	【2023年度以降カリキュラム対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】			⇔	教育社会学の基本的な理論・概念を理解し、教育現象や教育問題を教育社会学の視点から専門的・学術的に説明することができる。		
	【2023年度以降カリキュラム対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】			⇔	教育社会学の視点から、経験的データを収集・活用し、教育現象や教育問題を実証的・分析的に理解・説明する力を身につける。		
授業で学べる「テーマ」	地域運営、環境共生、多文化協働、キャリア						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	本授業では、日本における具体的な学校・教育現象を教育社会学の視点から対象化・相対化して認識する力を身に付けることを目的とする。						
授業計画	第1回 オリエンテーションー教育社会学とは 第2回 学校教育制度① 近代学校の誕生と普及 第3回 学校教育制度② 能力・選抜・再生産 第4回 学校と社会① 学校で学ぶべき知識はどう決まる？ 第5回 学校と社会② 学校から社会への移行 第6回 不登校① 「学校に行かないこと」の意味変容 第7回 不登校② 学校の外での学び 第8回 子どもの貧困① 実態と対策 第9回 子どもの貧困② 支援現場 第10回 ジェンダーと学校教育① 進路選択と性別 第11回 ジェンダーと学校教育② セクシャル・マイノリティの子どもたち 第12回 家族と教育① 教育格差は幼児期から始まる？ 第13回 家族と教育② 家族をケアする子どもたち 第14回 逸脱と教育① なぜ校則違反は起きるのか？ 第15回 逸脱と教育② 少年非行はだれのせいかな？・授業アンケート実施 ※授業内容・順番は変更する場合がある。						
成績評価の方法	毎授業後に提出する課題・リアクションペーパーの提出（30％）と期末レポート（70％）の結果をもとに成績評価を行う。 教育をめぐるさまざまな現象や問題を社会構造や変動と関連付けながら読み解く基本的視座を獲得し、適切に説明することができるようになったかを評価する。						
成績評価の基準	リアクション・ペーパー、期末レポートは以下の点から評価する。 （１）社会学における基本的概念・捉え方を理解する （２）社会現象を統計・文献などの実証的データを用いて説得的に論じる （３）社会現象の背景や構造について、独自の考察を展開する 全ての点について十分な水準・成果に達していると判断された場合は『卓越している』と評価し、いくつかの点で特に優れていると判断された場合は、その程度に応じて『かなり上にある』『やや上にある』と評価し、総合的に一定の水準を満たしていると判断された場合は『その水準にある』と評価する。						
事前事後学習の内容	【事前】事前にオンライン学習システム上にアップロードされているレジュメを確認すること。その際に、わからないことなどは参考文献を確認すること。 【事後】毎授業終了時に紹介する文献を読むこと。 また必要に応じて以下の３点について積極的に取り組むこと。 1)教育社会学の基礎概念に関しては教育社会学事典等で学習すること。 2)（高校公民レベルの）社会史・思想史に関しては新書レベルの読み物が数多く出ているので事前事後学習に位置づけること。 3)日ごろから新聞や雑誌、インターネットで社会問題や論壇に関して情報収集を行うこと。						
履修上の注意	毎回授業後に課題を提示し、課題提出をもって出席とする。 オンライン学習システムを通じて講義資料の配布を行うため、これらに対応したWebブラウザなどをインストールした端末及びインターネット環境が必要となる。 教科書の構成に沿って授業を進めるわけではなく、参照するために用いる。						
質問、相談への対応	e-ALPSの授業サイトから質問・相談を行うことができる。 また、対面での質問・相談を希望する場合は、個別にメールで連絡すること。。						

教科書	片山悠樹・内田良・古田和久・牧野智和, 2017, 『半径5メートルからの教育社会学』大月書店.
参考書	耳塚寛明, 2014, 『教育格差の社会学』有斐閣アルマ.